

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

分担研究報告書

がん緩和医療を在宅で実践するための精神医学的介入に関する研究

研究分担者	内富庸介	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 精神神経病態学 教授
研究協力者	井上真一郎	岡山大学病院 精神科神経科 助教
	岡部伸幸	岡山大学病院 精神科神経科 助教
	小田幸治	岡山大学病院 精神科神経科 助教
	矢野智宣	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 精神神経病態学 客員研究員
	馬場華奈己	岡山大学病院 看護部 看護師
	土山璃沙	岡山大学病院 医療技術部 臨床心理士
	高田晴奈	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 精神神経病態学 臨床心理士

研究要旨

がん在宅医療においてせん妄は多くみられる精神疾患であるが、そのうち治療可能性の比較的高いものが多いにもかかわらず、実際には対応に難渋するとの理由でやむを得ず在宅医療が中断され入院に至るケースが存在している。そこで、在宅医療に携わる医師や訪問看護師が、せん妄について正確に診断できるのみならず治療可能性についても評価できる知識やスキルの習得を目的とした教育プログラムを構築する。

A．研究目的

せん妄はがん在宅医療において高頻度に見られる精神疾患であり、在宅医療の障壁となりうる。よって、在宅医療に携わる医師や看護師がせん妄に関する知識やスキルを習得することが重要である。本研究では、ロールプレイを用いたせん妄研修会の開発を目的とする。

B．研究方法

在宅医療におけるせん妄への対応について、知識やスキルを盛り込んだビデオを作成する。

臨床経験 5 年以上の在宅医及び訪問看護師を対象とし、せん妄研修会を行う。研修会では、がん在宅医療におけるせん妄の特徴や対応などについての講義を行い、また前述のビデオに

て学習を行う。また、模擬患者と模擬家族を用いたロールプレイにより、診断・治療などのスキルを習得する。

（倫理面への配慮）

研究参加は個人の自由意思によるものとし、研究への同意し参加した後でも随時撤回可能であり不参加による不利益は生じないこと、個人のプライバシーは厳密に守られることを文書にて説明し、対象者本人からインフォームド・コンセントを得た後に行った。

C．研究結果

平成 25 年 2 月 26 日に研修会を行い、在宅医 3 名及び訪問看護師 3 名の参加を得た。研修会

前後で自信度などを問う質問紙による調査とせん妄の知識を問うテストを行い、比較を行った。

#### D . 考察

テストはせん妄の知識を問うもので 10 問からなる。研修会の前後で同一内容の試験を行い比較検討したところ、研修前に行ったテストは平均値 5.17、標準偏差 0.753、研修後のテストは平均値 6.67、標準偏差 0.816 であった。テストの合計点平均値を対応のある t 検定で比較したところ、 $p=0.007$  ( $<0.05$ ) となり、有意に差があると考えられた。

また、自信度などを問う質問紙では、22 の質問のうち 15 項目において、研修会前後で有意差を認めた。質問の内容については別紙アンケートの項目を参照のこと。

#### E . 結論

結果については研修会の有効性が示唆されるものであるが、サンプル数が少ないことが問題点として挙げられる。次年度以降は県外などでも研修会を開催し、在宅医療の質の向上に寄与したい。

#### F . 健康危険情報

特記すべきことなし

#### G . 研究発表

##### 1 . 論文発表

1. Akechi T, Morita T, Uchitomi Y, et al : Good death in elderly adults with cancer in Japan based on perspectives of the general population. J Am Geriatr Soc, 60(2):271-6, 2012
2. Terada S, Uchitomi Y. : School refusal by patients with gender identity disorder. Gen Hosp Psychiatry, 34(3):299-303, 2012
3. Takeda N, Uchitomi Y, et al : Creutzfeldt-Jakob disease with the M232R mutation in the prion protein gene in two cases showing different disease courses: a clinicopathological study. J Neurol Sci, 15;312(1-2):108-16, 2012
4. Shimizu K, Akechi T, Ogawa A, Uchitomi Y, et al : Clinical biopsychosocial risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project. Ann Oncol, 23(8) : 1973-9, 2012
5. Saito-Nakaya K, Uchitomi Y, et al : Stress and survival after cancer: a prospective study of a Finnish population-based cohort. Cancer Epidemiol, 36(2):230-5, 2012
6. Oshima E, Uchitomi Y, et al : Frontal assessment battery and brain perfusion imaging in Alzheimer's disease. Int Psychogeriatr, 24(6):994-1001, 2012
7. Ogawa A, Shimizu K, Uchitomi Y, et al : Availability of psychiatric consultation-liaison services as an integral component of palliative care programs at Japanese cancer hospitals. Jpn J Clin Oncol, 42(1):42-52, 2012
8. Ishida M, Onishi H, Uchitomi Y, et al : Psychological Distress of the Bereaved Seeking Medical Counseling at a Cancer Center. Jpn J Clin Oncol, 42(6):506-512, 2012
9. Asai M, Uchitomi Y, et al : Psychological states and coping strategies after bereavement among spouses of cancer patients: a quantitative study in Japan. Support Care Cancer, 20(12):3189-203, 2012
10. Yoshida, H. Uchitomi, Y, et al: Validation of the revised Addenbrooke's Cognitive Examination (ACE-R) for detecting mild cognitive impairment and dementia in a Japanese population. Int Psychogeriatr, 24(1): 28-37, 2012
11. Inoue S, Uchitomi Y, et al: A case of adult-onset adrenoleukodystrophy with frontal lobe dysfunction: a novel point mutation in the ABCD1 gene. Intern Med, 51(11):1403-6, 2012
12. Yamaguchi T, Morita T, Uchitomi Y, et al: Effect of parenteral hydration

- therapy based on the Japanese national clinical guideline on quality of life, discomfort, and symptom intensity in patients with advanced cancer. J Pain Symptom Manage. 43(6): 1001-12, 2012
13. Fujimori, M. Uchitomi Y, et al: Communication between Cancer Patients and Oncologists in Japan. New Challenges in Communication with Cancer Patients. 301-313, 2012
  14. Asai M, Shimizu K, Ogawa A, Akechi T, Uchitomi Y, et al: Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients. Psychooncology. 2012. in press
  15. 矢野智宣, 内富庸介: 周術期のせん妄の診断と治療術前からリスク因子に対応し、必要に応じて薬物治療を. Life Support and Anesthesia, 19(2): 144-148, 2012
  16. 藤原雅樹, 内富庸介, 他: うつ状態に対する lamotrigine の急性効果の検討. 臨床精神薬理, 15(4): 551-559, 2012
  17. 内富庸介: がん患者の抑うつと薬物治療. 臨床精神薬理, 15(7): 1135-1143, 2012
  18. 内富庸介: がん医療においてサイコロジスト築いてほしい心のケア体制. CLINICIAN, 59: 26-32, 2012
  20. 内富庸介: がん医療におけるコミュニケーションスキル. 造血細胞移植, 24:2-3, 2012
  21. 内富庸介: 新規抗うつ薬. CLINICIAN, 59(8): 14-17, 2012
  22. 矢野智宣, 内富庸介, 他: うつ病を伴う口腔灼熱感症候群に pregabalin が有効であった1例. 精神医学, 54(6): 621-623, 2012
  23. 内富庸介: がん患者の意思決定を支援する. Nursing Today, 27(5): 50-53, 2012
  24. 内富庸介: 悪い知らせを伝える際のコミュニケーション・スキル SHARE プロトコル. PSYCHIATRIST, 17: 5-22, 2012
  25. 井上真一郎, 内富庸介: B.サイコロジジー. 乳腺腫瘍学. 日本乳癌学会(編), 金原出版株式会社, 325-330, 2012.
  26. 内富庸介: サイコロジジー領域における抗うつ薬の役割. Depression Strategy うつ病治療の新たなストラテジー. 小山司/監修, 先端医学社, 7-12, 2012.
  27. 井上真一郎, 内富庸介: 緩和医療におけるせん妄症例 B. 病棟・ICU で出会うせん妄に診かた. 八田耕太郎, 岸泰宏(編), 中外医学社, 153-167, 2012
  28. 寺田整司, 内富庸介: 認知症を伴う糖尿病性腎症患者のケーススタディ. 糖尿病×CKD 診療ガイド Q&A. 榎野博史(編), 南山堂, 167-168, 2012.
  29. 小川朝生/内富庸介(編): 精神腫瘍学クリニカルエッセンス. 日本総合病院精神医学学会がん対策委員会(監修), 創造出版, 1-333, 2012.
2. 学会発表
    1. 内富庸介: 患者意向を重視したコミュニケーション技術研修(SHARE): 5年間の軌跡, 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会, 大阪, 2012.7, 演者
    2. 白井由紀, 内富庸介: 治療を決める際のがん患者質問促進パンフレットの有用性について, 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会, 大阪, 2012.7,
    3. 内富庸介: がん患者とのコミュニケーションを多職種で支える~チーム医療の新たなアプローチ~, 第50回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2012.10, 座長
    4. 内富庸介: 脳腫瘍患者・家族への心の支援: 精神腫瘍学の立場から, 第30回日本脳腫瘍学会学術集会, 広島, 2012.11, 教育セミナー
    5. 内富庸介: 統合失調症: 脳・生活・思春期発達の交点, 第53回中国・四国精神神経学会/第36回中国・四国精神保健学会, 岡山, 2012.11.15, 座長
    6. 大林芳明、流王雄太、高木学、高橋茂、内富庸介: うつ病患者に投与した mirtazapine がアカシジアを引き起こした2症例, 第53回中国・四国精神神経学会/第36回中国・四国精神保健学会, 岡山, 2012.11.15, 一般演題
    7. 板倉久和、藤原雅樹、児玉匡史、大澤和宏、光井祐子、千田真友子、酒本真次、岡部伸幸、内富庸介: 緊張状態を呈し、たこつば型心筋症を発症した Parkinson 病の一例, 第53回中国・四国精神神経学会/第36回中国・四国精神保健学会, 岡山, 2012.11.15, 一般演題

8. 馬庭真理子、河田敏明、藤原雅樹、小田幸治、高木学、内富庸介：左後頭葉術後に出現した器質性精神障害に対してリハビリテーションが有効であった一例，第 53 回中国・四国精神神経学会/第 36 回中国・四国精神保健学会，岡山，2012.11.16，一般演題
9. 千田真由子、松本洋輔、水木寛、高木学、岡部伸幸、内富庸介：非けいれん性てんかん発作重積を呈した一例，第 53 回中国・四国精神神経学会/第 36 回中国・四国精神保健学会，岡山，2012.11.16，一般演題
10. 井上真一郎、土山璃沙、馬場華奈己、矢野智宣、小田幸治、岡部伸幸、寺田整司、内富庸介：精神科医によりせん妄と診断された患者における身体科医からの紹介病名についての検討，第 53 回中国・四国精神神経学会/第 36 回中国・四国精神保健学会，岡山，2012.11.16，一般演題
11. 小田幸治、土山璃沙、馬場華奈己、矢野智宣、井上真一郎、岡部伸幸、寺田整司、内富庸介：岡山大学病院における「精神科リエゾンチーム加算」の算定および運用方法について，第 53 回中国・四国精神神経学会/第 36 回中国・四国精神保健学会，岡山，2012.11.16，一般演題
12. 光井祐子、藤原雅樹、岡久祐子、児玉匡史、岡部伸幸、内富庸介：遷延した意識障害が体重増加と共に改善した神経性無食欲症の一例，第 53 回中国・四国精神神経学会/第 36 回中国・四国精神保健学会，岡山，2012.11.16，一般演題
13. 内富庸介：精神腫瘍学，第 25 回日本総合病院精神医学会総会，東京，2012.11，座長
14. 内富庸介：がん患者の心のケア～精神医学と心理学の配合加減～，第 25 回日本総合病院精神医学会総会，東京，2012.11，座長
15. 内富庸介：英語論文を査読するときのポイント，第 25 回日本総合病院精神医学会総会，東京，2012.12.1，演者
16. 内富庸介：抗うつ薬の反応予測，そして奏効しない際の次の一手は，第 25 回日本総合病院精神医学会総会，東京，2012.12，座長
17. 馬場華奈己，内富庸介，他：岡山大学病院における術後せん妄対策の実際 - 周術

期管理センター連携モデル - ，第 25 回日本総合病院精神医学会総会，東京，2012.11，ポスター

18. 小田幸治，内富庸介，他：岡山大学病院における「精神科リエゾンチーム加算」の算定及び運用方法について，第 25 回日本総合病院精神医学会総会，東京，2012.11，ポスター
19. 清水研，明智龍男，小川朝生，内富庸介，他：肺がん患者に合併する抑うつ危険因子について：身体・心理・社会面の包括的検討，第 25 回日本総合病院精神医学会総会，東京，2012.11，ポスター

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許の取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
特記すべきことなし

